

[研究会記事] 歴史地震研究会だより 2009年5月～2010年6月

歴史地震研究会幹事会

目次

- ・ 前号以降の歴史地震研究会の活動(2009年5月～2010年6月)と今後の予定
- ・ 2008年度第4回歴史地震研究会幹事会(2009年5月25日)議事録
- ・ 2008年度第5回歴史地震研究会幹事会(2009年7月23日)議事録
- ・ 第26回歴史地震研究会(2009年9月12～14日)報告
- ・ 第26回歴史地震研究会 総会(2009年9月13日)議事録
- ・ 2008年度(2008年9月～2009年8月期)決算, 2009年度(2009年9月～2010年8月期)予算ならびに2009年度事業計画
- ・ 2009年度第1回歴史地震研究会幹事会(2009年11月5日)議事録
- ・ 2009年度第2回歴史地震研究会幹事会(2010年1月13日)議事録
- ・ 2009年度第3回歴史地震研究会幹事会(2010年4月1日)議事録
- ・ 第27回歴史地震研究会(2009年9月10～12日)講演申し込み案内
- ・ 2009年度第4回歴史地震研究会幹事会(2010年6月3日)議事録
- ・ 第27回歴史地震研究会(2009年9月10～12日)のプログラム等
- ・ 『歴史地震』原稿募集のおしらせ
- ・ 歴史地震研究会会誌編集規程(2009年7月23日改定)
- ・ 歴史地震研究会への入会手続きのご案内
- ・ 歴史地震研究会会則
- ・ 歴史地震研究会役員および委員名簿(2010年7月1日現在)

歴史地震研究会の活動(2009年5月～2010年6月)と今後の予定

2009年

- 5月25日(月) 2008年度第4回歴史地震研究会幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 7月23日(木) 2008年度第5回歴史地震研究会幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月12日(土)～14日(月)第26回歴史地震研究会(滋賀県大津市)
 - 12日 研究発表会, 懇親会
 - 13日 研究発表会, 総会
 - 14日 見学会「地図に見る関東地震」展と特別講演会(国土地理院 地図と測量の科学館)
- 11月5日(木) 2009年度第1回幹事会(地震予知総合研究振興会)

2010年

- 1月13日(水) 2009年度第2回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 3月25日(木) 日本学術会議協力学術研究団体に認定
- 4月1日(木) 2009年度第3回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 6月3日(木) 2009年度第4回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- (以下, 予定)
- 8月27日(金) 2009年度第5回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月10日(金)～12日(日)第27回歴史地震研究会(東京都文京区 東京大学地震研究所)

2008 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2009 年 5 月 25 日(月)15:00~17:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:北原(会長), 武村(副会長), 植竹, 小松原, 中村, 松浦, 諸井(以上, 幹事)

議事

1. ホームページ・お知らせページ設置について

広報委員より歴史地震研究会のホームページに行事等に関する「最新のお知らせ」を設置し, 天津大会の第一報及び立命館大学歴史都市防災センターにおいて開催の講演会についてアップしたとの報告があった。

2. 会誌の編集状況について

編集委員より最終的に 22 編の投稿があり査読を実施した。現時点で 12 編は修正原稿を受理し, 会誌は 6 月中に発行する予定である旨の報告があった。

3. 会誌と会費振込用紙送付等について

会誌と会費の振込用紙は, 会誌と共に同封することとなった。

振込用紙は会誌と同封された場合に紛失しやすいことが会員より指摘されていたため, 編集委員は, 封筒表に「振込用紙在中」を明記することとなった。また, 振込用紙には, 会計委員が歴史地震研究会の名称及び口座番号を記載することとなった。そのためスタンプ印を新たに作成することが了承された。

4. 会員の確認及び新規入会について

会員は現在 198 名であるが, 会費未納者には会計委員などから連絡することとなった。

また, 新規入会 2 名があることが会計委員より報告があり了承された。

5. 今年度天津大会準備に関して

5.1 大会申込みについて

発表申込の締切りは, 地震学会ニューズレターの発行に間に合わせるため, 5 月末とすることとなった。ただし, 余裕あればその後も受け付ける。また, 予稿原稿の投稿・見学会・懇親会の締め切りは 7 月末とすることとなった。

これらの情報は, 行事委員から musha メーリングリストに流し, 広報委員はホームページにアップすることとなった。

予稿原稿は, 来年度の会誌に掲載できるようにワードファイル等の電子ファイルで受け付ける。

5.2 大会行事について

下記について, 確認・了承された。

- ・招待は 6 名で参加費・懇親会費は無料とする。
- ・領収書(参加費・巡検費・懇親会費)を会計委員が準備する。
- ・学生アルバイト 2 名を 2 日願います。予算は 1 万 2000 円/1 人日とする。

6. 企画展の後援等に関して

6.1 神奈川大学非文字資料研究センター第 3 回公開研究会(本研究会後援)

会長より「震災復興と文化変容—関東大震災後の横浜・東京—(3 月 14 日(土) 10:00-16:20 於:

横浜みなとみらいランドマークタワー2501 会議室)」が実施され、市民を含む 100 名以上の参加者があった旨の報告があった。

6.2 立命館大学歴史都市防災研究センター・企画展示及び講演会（本研究会後援）

会長より企画展示会「地図を通して見る関東大震災（4月8日～5月10日）」及び記念講演会「関東大震災を検証する－救援・復興・防災－（4月25日）」が実施され、国土地理院や立命館大学所有の版画原画などのパネルが展示された等の報告があった。

6.3 東京都測量設計業協会展示

会長より、新宿に展示会（6月2日～4日）が予定されている旨の報告があり、広報委員は、歴史地震研究会のHPに本展示会のリンクをはることとなった。

7. その他

・次々回大会について話し合いがなされた。

第5回幹事会の日程

2009年7月23日(木)15時から地震予知総合研究振興会会議室で開催する予定。

2008年度第5回歴史地震研究会幹事会議事録

日時:2009年7月23日(木)15:00～17:30

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:北原(会長), 武村(副会長), 植竹, 小松原, 中村, 松浦, 諸井(以上, 幹事)

1. 前回議事録の確認

第四回幹事会議事録の確認を行った。

2. 会誌の編集規定の改定について

編集委員より、会誌編集規定の改定について提案がなされた。提案は、①論説で扱った地震名を明記する点、②投稿原稿の内容から編集者の判断によって原稿種別を変更できる点の2点である。①については、今回の会誌から編集の段階で実施されたが、規定に明記するほうがよいとの編集委員のメンバーから意見を受けた提案であり、②については、たとえば「論説」として投稿があっても内容的に論説の条件を満たしていないと判断される場合、「報告」等の他の適切な種別に変更ができるようにするための提案である。本提案は、幹事会において、質疑の後、承認された。

3. 今年度大津大会準備に関して

3.1 研究発表会・見学旅行・懇親会について

行事委員より発表会の申込状況や運営方法及び巡検の準備について報告があり質疑がなされた。

申込みは38件であり、司会をやって頂ける方に連絡済みである。口頭発表については、パワーポイントの場合、パソコンの種類(Mac, Windows)やバージョンの違い(Microsoft Office 2003, 同 2007)によって動作や表示に問題がでることが予測されるが、大会では、Windows 及び Microsoft Office 2003 の組み合わせを発表会に用意することとなった。

巡検の準備については植村先生に多くお願いしている。巡検のバス代は8万5000円程度の手配である。巡検や申込み数は現状15名と少ないので、mushaに再度流すこととなった。

このほか、懇親会の段取りについて話し合いがなされた。

3.2 総会について

総務委員より総会議事次第案について、財務委員より決算報告案、来年度予算案及び入退会者の報告があった。

3.3 その他

一般向け講演会の宇佐美先生の配布資料、研究会予稿集、巡検資料については、行事委員で用意する。参加費・懇親会費・巡検代の領収書については、前財務委員（宋倉氏）に方法等を確認し、財務委員で作成する

会長・副会長・行事委員は、大会前日9月11日に滋賀県・大津市へ挨拶にゆく。

3. 来年度会長の推薦

来年度の会長について、現幹事会全員により北原現会長を推薦することとなった。

4. 来年度大会・再来年度大会について

副会長より、来年度大会を東大地震研究所で実施する方向で地震研佐竹先生の了解を得た旨の報告があった。

再来年度大会について候補となる場所について話し合いがなされた。

第26回歴史地震研究会(2009年9月12～14日)報告

姉川地震から100年を迎えた2009年、滋賀県と大津市のご後援を頂いて滋賀県大津市にて9月12日(土)から14日(月)の日程で研究発表会・公開フォーラムおよび巡検を行いました。研究発表会には58名が参加し、37件(口頭27件、ポスター10件)の発表がありました。また初日夕刻に懇親会が開催されました。最終日の巡検には38名と滋賀県の方が3名途中まで参加されました。

会場：大津市浜大津・明日都浜大津4階ふれあいプラザホール

日程：2010年 9月12日(土)、13日(日) 午前 研究発表会

9月12日(土) 夕刻 懇親会

9月13日(日) 午後 公開フォーラム

9月13日(日) 夕刻 総会

9月14日(月) 巡検:「湖西の地震史跡をたずねて」

詳しいプログラムは以下の通りです。

9月12日(土) 研究発表会一日目(明日都浜大津4階ふれあいプラザホール)、懇親会

10:30～11:45 防災教訓 (座長：黒崎ひろみ)

1. 武村雅之・篠原憲一：震災の慰霊碑巡礼で深まる地域防災：神奈川県平塚市での関東大震災
2. 里口保文・小松原琢：姉川地震の震災写真を使った展示による防災アピール
3. 木村玲欧・岩月佐江子・藤田哲也・阪野智啓：絵画によって子どもの「気づき」を誘発する環境防災教育手法の提案
4. 松尾裕治・中野晋・山本基・鳥居謙一・村上仁士：先人の教えに学ぶ四国防災八十八話～地震事例について～
5. 津村建四朗・野口和子・鷹野 澄：地震研究所に保存されている鳥取・東南海・三河・南海・福井地震のアンケート調査資料

11:45～12:15 活断層 (座長：林能成)

6. 松浦律子：活断層評価における歴史地震解析結果の役割について
7. 金田平太郎・佐護浩一：トレンチ調査に基づく濃尾断層帯、武儀川断層の最新活動時期と歴史地震－1289年（正応二年）地震に関する越波集落の伝承－

13:15～14:15 ポスター発表その1

8. 中村正夫：近畿地方の地震活動についての研究史
9. 松浦律子・中村操・唐鎌郁夫：江戸時代の歴史地震の震源域・規模の再検討作業－文化9・11年土佐の地震等5地震について
10. 中村操・松浦律子・河内一男：安政江戸地震の地方史料の解釈
11. 松岡祐也・都司嘉宣：安政東海地震（1854）による江戸及び関東全域の震度分布
12. 都司嘉宣・松岡祐也・今村文彦：歴史津波浸水標高データの史料からみた再検証
13. 島崎邦彦・金 幸隆・石辺岳男・都司嘉宣・佐竹健治・今井健太郎・泊次郎・千葉 崇・須貝俊彦・岡村 眞・松岡裕美・藤原 治・行谷佑一：三浦半島における津波堆積物調査から推定される関東地震の発生履歴
14. 藤原治・小野映介・矢田俊文・海津正倫・佐藤善輝・V. Heyvaert：浜名湖西岸の浜名川流路跡で見られる1498年明応地震に伴う環境変化

14:15～14:45 地震の物理（座長：武村雅之）

15. 石辺岳男・島崎邦彦・鶴岡弘・佐竹健治：過去の大地震による静的クーロン応力変化と近年の地震活動の相関性について
16. 林能成・小澤邦雄：1935年静岡地震断層モデルの再検討

14:45～15:45 近代の地震（座長：北原糸子）

17. 佐藤弘美・黒崎ひろみ：1891年濃尾地震にみる文化財建造物の被害
18. 黒崎ひろみ・佐藤弘美・中野 晋・村上仁士：1891年濃尾地震を中心とした過去の地震災害がもたらした経済変化
19. 諸井孝文・武村雅之：1923年関東地震における死者発生のプロセス（その4）－震災予防調査会報告第100号甲の松澤データの原典－
20. 武村雅之：関東大震災における米神・根府川（神奈川県足柄下郡片浦村）の被害総数

16:00～17:00 近世の地震（座長：白石睦弥）

21. 村岸純：1703年元禄関東地震による海岸環境変化の影響－房総半島南部を事例として
 22. 宇佐美龍夫・植竹富一：寛文10年(1670)四万石の地震の再考
 23. 中村亮一・植竹富一：史料にもとづく享和2年(1802)佐渡小木地震の沈降域の推定と断層モデルの考察
 24. 河内一男：宝暦佐渡沖地震の震央の修正とその意味
- 18:30～20:30 懇親会（於：びわ湖大津館レストラン ル・ジャルダン）

9月13日（日） 研究発表会・公開フォーラム，総会（明日都浜大津4階ふれあいプラザホール）

09:00～10:00 近世の地震と火山噴火（座長：村岸純）

25. 都司嘉宣：安政東海地震・南海地震（1854）による河川閉塞，新湖出現記録
26. 今村隆正・高野繁昭・角谷ひとみ・高田 郁：『越後国頸城郡高田領往還破損所絵図』に見る高田大地震(1751)の災害状況
27. 白石睦弥：岩木山と災害対応－硫黄山出火を中心に－
28. 松岡祐也・今村文彦・都司嘉宣：『玄与日記』に記された文禄五年(1596)豊後地震による周防国上関の津波被害

10:00～10:30 古代・中世の火山噴火と地震（座長：都司嘉宣）

29. 桜井貴子：南史に痕跡の残る謎の大噴火と日本史への影響
30. 井上公夫：八ヶ岳大月川岩屑なだれ（887）によって形成され，302日後に決壊した天然ダム

10:30～11:00 ポスター発表その2

- 31. 高柳夕芳・小山真人：13世紀古記録にもとづく未知の東海地震の発生時期検討
- 32. 今村隆正：町居崩れ
- 33. 白石睦弥：岩木山信仰と領主権力—硫黄山出火とその影響—

11:00～12:00 北近畿地方の地震と津波 (座長:金田平太郎)

- 34. 羽鳥徳太郎：若狭湾岸の津波の挙動(福井県・京都府)
- 35. 小松原琢・関西地質調査業協会地盤情報データベース作成委員会・三田村宗樹：近江盆地の地震環境
- 36. 植村善博・小林善仁：1927年北丹後地震による峰山町の被害と復興計画
- 37. 西山昭仁：文政京都地震(1830)における京都盆地での被害状況

13:30～16:00 公開フォーラム「近江の国の歴史地震～歴史に学ぶ地震防災～」

- 講演1 宇佐美龍夫氏(東京大学地震研究所名誉教授):近江国南部の歴史地震
 - 講演2 中島健氏(滋賀県立守山高等学校教諭):もしも地震がなかったら・・・
 - 講演3 小椋正清氏(滋賀県防災危機管理局長):災害に強い地域づくりについて
- 討論 司会:植村善博氏(佛教大学文学部教授)

16:30～17:30 総会

9月14日(月) 巡検:「湖西の地震史跡をたずねて」

- 08:30 浜大津集合-JR 大津駅-①膳所城-②堅田断層-③白鬚神社-安曇川道の駅(昼食)-④朽木陣屋跡-⑤町居崩れ-⑥葛川明王院-花折峠-17:30 JR 京都駅八条口解散

第26回歴史地震研究会 総会議事録

日時: 2009年9月13日(日)16:30～17:30

場所: 大津市浜大津・明日都浜大津 4階ふれあいプラザホール(滋賀県大津市)

- ・総会には全会員数の10分の1の実出席を要する。定足数21名を上回る32名の会員が出席し、総会の成立を確認。
- ・武村副会長が島崎会員を推薦し、拍手により同氏を議長に選出。島崎会員が議長席につき、以下の議案につき審議を行った。

○議事

1. 2008年度活動報告

社会的活動の報告(武村副会長)

社会的貢献として、総会資料1の6つの事業に研究会として協力した。

2. 各委員会報告

総務委員会(中村総務幹事)：6回の幹事会を開催するなど会が円滑に運営されるよう努めた。また、第一回及び第二回幹事会において会誌無料配布先選定作業をおこなった(総会資料2)。

行事委員会(小松原行事幹事)：行事幹事のほか西山会員・植村会員の計3名で行事委員会を組織し、大会運営を行った。

編集委員会(松浦編集幹事)：歴史地震24号を6月に発行した。昨今の諸事情により一般の年度末は査読・編集に時間をかけることができないため4月発行を見送った。ページ数は230頁程度である。投稿された論文で査読改訂中の論説が数個残っているが、じっくりと改訂して良い論文としたほうがよいと判断した。会誌発送時期の変更に伴って会誌の発送とは別に大会のお知らせを4月に郵送することにする。また、7月23日の幹事会に

て総会資料 3 に抜粋した投稿規定の改定を行った。24 号から論説に対象とした地震名を引用文献の前に記載するようにしたが、それを明文化した。また、原稿種別の変更の場合は原稿文末に編集者により変更に至った経緯を注記することとし明文化した。

広報委員会(植竹広報幹事)：総会資料4のように小山会員の協力を得てHPの充実に務めた。今期は展示会などを含めた研究会の活動を知ってもらうようにするため、新たに最新のお知らせページを新設した。

3. 2008 年度決算および入退会者報告(諸井財政幹事)

- ・ 総会資料 5 を参照.
- ・ 収入¥2,010,155 (前年度繰越金含む) 支出¥575,244
- ・ 前年度繰越金¥1,444,449 次年度繰越金¥1,434,911
- ・ 新規入会者は 11 名, 退会者 5 名
- ・ 長期会費未納者 0 名, 連絡先不明会員 0 名
- ・ 2009 年 8 月 31 日における会員数は 205 名

4. 2008 年度会計監査報告(永井会計監査役)

別紙「歴史地震研究会 2008-2009 年度 決算報告」の内容について、帳簿等を確認して了承。また、学術団体として社会貢献、研究会の活動性及び財務の透明性についていずれも良いと判断される。

5. 質疑

予算額で会費 190 名分を計上しているが、現在 205 名であるなら、その予算をあてるべきでないか。
→ 一般にどこの学会でも回収率を考慮して予算計上している(武村副会長)。

6. 2008 年度決算承認

別紙「歴史地震研究会 2008-2009 年度 決算報告」の内容を全会一致で承認。

7. 役員選出

(1) 次期会長(武村副会長)

第五回幹事会(7月23日)にて武村・諸井・松浦・植竹・小松原・中村の6名により現北原会長を推薦。拍手により承認。

(2) 次期監査役(武村副会長)

永井九一氏の監査役留任と中村操氏の新任を推薦。全会一致で承認。

8. 会長挨拶

「会員から要望や情報を募集してより良い研究会の運営に努める。向こう1年間がんばっていく」と所信表明。

9. 役員指名(北原会長)

・会長が各幹事を指名。

副会長:武村雅之氏(留任)

総務幹事:小松原琢氏(新任;中村亮一前総務幹事より引継ぎ)

広報幹事:林能成氏(植竹前広報幹事より引継ぎ)

編集出版幹事:松浦律子氏(留任)

財政幹事:諸井孝文氏(留任)

行事幹事:佐竹健治氏(小松原前行事幹事より引継ぎ)

10. 新年度役員就任挨拶

各役員から各々の業務に関する抱負の表明.

11. 次年度大会の計画(佐竹行事幹事)

- ・2010年9月10日～12日に東京大学地震研究所にて開催を計画中.

12. 2009年度予算と同年度事業計画(諸井財政幹事)

歴史地震研究会は、2009年度(2009年9月～2010年8月)に、以下の事業を実施する.

1. 第27回歴史地震研究発表会を、2010年9月半ばに東京大学地震研究所で開催する準備をする.
 2. 会誌『歴史地震』第25号を450部発行する.うち、200部は公的機関に配布する.
 3. その他、必要な事業
- ・ 予算は総会資料7を参照.
 - ・ 収入:会費¥570,000(190名×¥3,000)
 - ・ 支出:¥656,000

質疑:会場費など行事関係の費用は計上されないのか?(佐竹行事幹事).

→ 毎年次年度に大会補填費として実情にあった金額を計上している(諸井財政幹事).

13. 2009年度予算承認

別紙「歴史地震研究会2009-2010年度 予算案」の内容について、全会一致で承認.

14. その他

(1) 歴史地震研究会の学術団体申請の提案(松浦編集委員幹事)

- ・ 歴史地震研究会は日本学術会議の研究団体として「学会名鑑」に掲載される資格を十分に有していると考えられるため申請することを提案したい(総会資料8).

質疑:必要経費が発生しないか(永井会員).

→ 発生しない(松浦編集幹事).

義務は発生しないか(諸井会員).

→ 発生しない(松浦編集幹事).

申請する分野は?(植村会員).

→ 「学際」で申請しようと思う(松浦編集幹事).

「研究会」よりも「学会」の方が良くないか?(林能成会員).

→ 研究会と学会を同格で扱っている分野も少なくないうえ、申請のために名前を変更すると却って手続きが難しくなるので「研究会」で申請したい(松浦編集幹事).

- ・ 全会一致で承認.

(2) 研究発表会の時間配分の問題(小松原旧行事幹事)

- ・ 最近地方大会でも発表件数が増えてきて時間配分に苦慮している.今後2年間をかけて幹事会で発表時間や開催形式・開催日数などを議論したい.意見があれば幹事会に伝えてほしい.
- ・ 全会一致で承認.

15. 閉会(武村副会長)

総会資料1 社会的活動の報告

2008-09年度には、以下の社会的活動を行なった.

- 1) 東京大学附属図書館特別展示会「かわら版・鯨絵にみる江戸・明治の災害情報ー石本コレクションから」(2008年10月24日～10月26日)展示協力及び記念講演会(2008年11月5日,講師:北原糸子)

- 2) 東京大学地震研究所 特別公開講義・展示「関東大震災から 85 年. 首都直下地震に備えて -次の東京の大地震は?-」(2009 年 2 月 8 日)の後援及び発表(武村雅之)
- 3) 神奈川大学非文字資料研究センター第3回公開研究会「震災復興と文化変容－関東大震災後の横浜と東京－」(2009 年 3 月 14 日)の後援及び発表(北原糸子)
- 4) 立命館大学歴史都市防災研究センター企画展示「地図にみる関東地震」(2009 年 4 月 4 日～5 月 9 日展示)及び同企画記念講演会(2009 年 4 月 25 日)の後援及び発表(武村雅之)
- 5) 滋賀県立琵琶湖博物館・滋賀県防災危機管理局主催, 彦根地方気象台・産業技術総合研究所地質調査総合センター後援 滋賀県琵琶湖博物館ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～」(2009 年 4 月 25 日～6 月 7 日)の協力(寒川旭・堀川晴央・小松原琢)
- 6) 東京都・「測量の日」東京地区実行委員会主催展示会『くらしと測量・地図』展～地図にみる関東大震災～(2009 年 6 月 2 日～6 月 4 日)の協力(国土地理院で 2008 年 9 月に歴史地震研究会後援の展示の 3 回目の巡回展)

総会資料 2 会誌無料配布先選定作業について

会誌「歴史地震」の無料送付先について, 第一回幹事会(2008 年 12 月 11 日)及び第二回幹事会(2008 年 10 月 9 日)を通じて, 次の作業を行った.

○従来配布先住所等の確認

昨年度配布先の 270 箇所について幹事が分担して組織名・住所・ホームページアドレスの更新作業を行った. また, 蔵書検索により, 会誌が登録されているかどうかも調べた.

○配布先の選定

民間団体や図書館等を持たない学会などは送付先から外した. その他, 同一団体で複数配布されている場合は, 蔵書登録の有無や組織と歴史地震とのつながりなどを考慮し送付するかどうか決定した. その結果として従来 270 箇所を 193 箇所に絞り込むことができた.

その後, 天理大学(2009/1/3)・京都大学図書館宇治分館(2009/7/2)・駒澤大学図書室(2009/7/24)から送付辞退の申し入れがあった. このため, 現在は送付先 190 箇所となっている.

総会資料 3 投稿規定改定について

第五回幹事会(2009 年 7 月 23 日)にて投稿規定の改正を行った. 改訂部分を抜粋して記載する.

投稿規定改定部分抜粋

歴史地震研究会会誌編集規定(2007 年 10 月 4 日制定, 2009 年 7 月 23 日一部改定)

細則

(原稿の種別)

4. 記事の構成は, 次のとおりとする.

- (1) 論説・資料および報告・紹介は, 表題(和文と英文), 著者・所属(和文と英文), 要旨(英文 200 語程度)・キーワード(英文 5 語程度), 本文(和文, 図・表・引用文献を含む)で構成する. ただし, 報告・紹介では, 要旨とキーワードを省くことができる. 論説には対象とした地震名を引用文献の前に明記する.

下線部を追加

(編集担当者)

12. 論説・資料として投稿された原稿について, 編集担当者は, 細則 11 項による編集担当者自らの判定と, 査読者の意見を基に, 原稿の取り扱いを次の中から決定する.

(a)～(e)項は省略

f) 原稿種別の変更

ただし, 原稿の不備が改善しうると期待できる場合は b), 原稿種別を変更すべき場合は b), 原稿に相当大幅な修正を要する場合は c), 複数の査読者の意見が大きく異なる場合は d), 原稿に修正困難な明白な誤り

がある場合は e), 細則 1 項に定める会誌の対象の範囲に合致しない場合には e), 原稿種別を変更して掲載する場合には f), と判定する。但し, f) の場合には原稿の文末に編者注を付け, 編集者により変更に至った経緯を明記する。

下線部を追加

付則

2. 本規定は, 2010 年発行の『歴史地震』第 25 号より適用する。

下線部を変更

総会資料 4 ホームページの管理等について

(1) 研究会ホームページ (<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>) の管理

* 最新のお知らせページを追加

(<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu0.html>)

・会則のアップデート

(<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu3.html>)

・総会 & 幹事会議事録の掲載

(<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu4.html>)

・会誌「歴史地震(第 24 号)」電子版の掲載

(<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu6.html>)

・研究会案内のアップデート

(<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu7.html>)

(2) メーリングリスト musha の管理

総会資料 5 2008-09 年度決算および入退会者報告

歴史地震研究会 2008-2009 年度 決算報告

	項目	予算額	決算額	増減	内訳
収入	2008-2009 年度会費	570,000	510,000	-60,000	170 名 × 3000 円
	2007-2008 年度以前会費(未払い者)	0	30,000	30,000	10 口
	会誌バックナンバー売り上げ	0	4,000	4,000	
	会誌口絵代	0	21,667	21,667	
	銀行利息	0	39	39	
	前年度繰越	1,444,449	1,444,449	0	
	合計	2,014,449	2,010,155	-4,294	

支出	つくば大会補填	0	-2,860	-2,860	
	大津大会準備費	100,000	91,073	-8,927	
	歴史地震 24 号印刷代	330,750	340,200	9,450	756 円 × 450 部
	会誌送付代	60,000	66,864	6,864	168 円 × 393 部 + 840 円
	HP 管理費	12,000	12,000	0	
	雑費(通信費・消耗品費など)	30,000	67,967	37,967	
	合計	532,750	575,244	42,494	

次年度繰越金	1,481,699	1,434,911	-46,788
--------	-----------	-----------	---------

8 月 31 日時点の会員数: 205 名 (新規入会 11 名, 退会 5 名, 長期会費未納者 0 名, 行方不明 0 名)

新規入会者: 国分 郁, 常光康弘, 伊藤善紀, 大西 充, 入江さやか, 上月康則, 佐藤弘美, 松尾裕治, 森本

晴夫, 岡田篤正, 真砂礼宏(敬称略, 入会順)

2008年つくば大会収支

	項目	金額	内訳
収入	参加費	69,000	1000円×69名
	要旨集売り上げ	1,000	500円×2部
	懇親会会費	215,000	5000円×43名
	昼食代(13日)	40,000	1000円×40食
	昼食代(14日)	40,000	1000円×40食
	合計	365,000	

支出	予稿集印刷代	25,704	80部
	アルバイト代	15,000	10000円×1.5日×1人
	通信費・文房具代	4,930	名札ケース, レーザポインターなど
	お茶菓子代	11,506	
	懇親会代金	225,000	5000円×45人分
	昼食代(13日)	40,000	1000円×40食
	昼食代(14日)	40,000	1000円×40食
	合計	362,140	

残高	2,860	
----	-------	--

総会資料 6 2010年大会の予定

2010年9月10日(金)~12日(日)に東京大学地震研究所にて開催を予定している。

研究発表会2日半, 地震研ラボツアー半日の予定(編者註:その後震災復興記念館見学に変更)

総会資料 7 2009-10年度予算案

歴史地震研究会 2009-2010年度 予算案

	項目	予算額	内訳
収入	会費	570,000	190名×3000円
	前年度繰越	1,434,911	
	合計	2,004,911	

支出	会誌印刷費(歴史地震 25号)	360,000	(800円×450部)
	会誌送料	64,000	(160円×400部)
	HP管理費	12,000	
	雑費(通信費・文房具購入など)	60,000	
	会議費	100,000	
	大津大会補填	50,000	
	次回大会準備費	10,000	
	合計	656,000	
	次年度繰越金	1,348,911	

総会資料 8

歴史地震研究会の学術団体申請提案

平成20年度幹事会

会誌「歴史地震」の掲載論文を業績リストに挙げた場合、会の説明等を求められるケースもあり、掲載が著者の利益になるためには、この際、日本学術会議に申請して、歴史地震研究会を登録された学術団体とする方策が有効という事例がでてきた。

調査すると、学術会議の協力学術研究団体として「学会名鑑」等に掲載されるには、申請が必要だが、その3要件は：

1. 学術研究の向上発達を図ることを主たる目的とし、かつその目的とする分野における学術研究団体として活動しているものであること
2. 研究者の自主的な集まりで、研究者自身の運営によるものであること
3. 「学術研究団体」の場合は、その構成員(個人会員)の数が100人以上であること
☆当該制度における「研究者」とは、人文・社会科学から自然科学までを包含するすべての学術分野において、新たな知識を生み出す活動、あるいは科学的な知識の利用及び活用に従事する者さらに申請時に所属等が判る会員と役員の名簿と機関誌の提出が必要で、
4. 役員半数以上が研究者
5. 役員も会費を負担していること
6. 人文科学、社会科学又は自然科学に関する学術の研究発表及び議論を主たる目的とする機関誌を発行していること
7. 機関誌の発行の終期がきまっていないこと(=継続していくつもりであること)
8. 機関誌は学術団体自体が発行しており、大学や研究機関が発行人でないことが問われます。

- ・ 一定の思想、主義、主張の普及又は宣伝を主たる目的とするもの
- ・ 趣味を目的とする同好者の集まりと認められるもの
- ・ 学術の研究が当該団体又は当該業種の事業目的の従たる目的に過ぎないもの
- ・ 営利を目的とすると認められた団体及びその附属機関
- ・ 国、特殊法人、独立行政法人及び地方公共団体並びにこれらの設置した学校及び附属機関、学校法人の設置した学校及び附属機関、それらの名称を冠したもののうち、実質的に、構成員の資格が特定の大学、学術研究機関その他の団体に所属する者や、かつてこれらに所属していたもの、となっているもの
- ・ 団体の研究が、研究者で行われているとは認められないもの

はだめで、機関誌も単行本、予稿集、講演要旨集、会議用資料、文献紹介、図書目録等単なる資料集、時事を報道論議することを主たる目的とするもの、団体又はその構成員の消息、意見等をその団体内に報告、交換することを主たる目的とするものは認められない。

以上の要件をみると、歴史地震研究会は申請可能です。また、現在の登録団体名称にも「研究会」のものが多数あるので、名称変更も不要です。そこで、半年程度結果が分かるのに時間がかかりますが、今年申請することを提案したいと思います。提出名簿の住所は郵便番号だけとし、氏名、所属、職名(研究機関に限ります)、性別とします。

2009年度第1回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2009年11月5日(木)16:00~18:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:北原(会長)、武村(副会長)、小松原、林、松浦、諸井(以上、幹事)、西山(行事委員)、中村(旧幹事)

議事

1. 総会議事録の確認

総務委員会作成の議事録案を検討した。議事録案を微修正した上早期に財政委員に送り会員に送付するとともに、広報委員を通じてHPに掲載する。また、4月に全会員に大会案内(講演申し込み申請など)

をはがきで郵送する。文面は行事委員が作成し、財政委員が発送する。

2. 学術団体申請について

学術団体申請に当たり会員名簿を提出する必要がある。今の名簿では団体・在外会員は入っていないのではないか？(編集委員)

財政委員で確認し、最新の全会員の記載されている名簿を編集委員に送付する(財政委員)。

11月6日午前に財政委員が編集委員に会長印鑑を送り、6日中に書類を提出する(編集委員)。

以下に編集委員からの申請報告の概要説明をまとめる。

- ・研究者比率・役員の会費納入義務など学術団体としての要件をクリアしている。
- ・連絡先は地震予知総合研究振興会とする。
- ・分野は人文社会科学と理工学の両方とした。
- ・趣意書などは会則を基に編集委員が作成し文書を完成させた。

3. 入会申請

前回の幹事会以降、4名が入会を申請しており、4人の入会を全委員が承認。

入会承認のお知らせは財政委員が出す。新入会員には最新号を総務委員が直接送付する。その際、すでに入金されているので会誌に会費振込み用紙を添えない。

4. 入会申込書の書式について

入会の動機(自己紹介)と職名を書く欄を入会申込書に加えるように書式を変更する(財政委員)。

5. 大津大会決算

後援いただいた滋賀県と大津市に収支報告を出す。収入欄に会費からの補填分を出す。

会長作成の謝礼文と懇親会などの写真を添えて決算報告を旧行事委員が後援者に出す。

大津大会の赤字を踏まえて今後の対策を議論した。

今後参加費は1000円にする(大会に参加しない会員もいることを考慮して、参加者が費用を自己負担する原則に基づいて、予稿集印刷費は最低限参加者負担とする)

アルバイト代の12000円/人・日は高すぎた。

来年以降の大会について、具体的な予算案を事前に作成するようにする。次回については行事委員会で予算案を作成し次回幹事会で議論する。

6. 会の備品の報告

会長印・銀行通帳は財政委員が保管

会の印鑑は総務委員が保管

会誌バックナンバーと大会用品は総務委員が保管

7. 幹事の仕事の役割分担

広報委員会：小山会員と協力してHPを更新する。小山会員との具体的な役割分担は両者で協議する。そのほかに地震学会NLへの寄稿、他の関連団体との間のよろず窓口として働く。

行事委員会：行事に関わるすべてを取り仕切る。2011年の行事は地質学会の日程を確認(総務委員担当)した上で、北原会長が矢田会員と協議・文書で依頼。

編集委員会：学会誌のすべてを取り仕切る。

8. 次回大会の計画

西山行事委員から素案が説明された。

北原会長が朝日文化財団から関東地震に関わる慰霊堂(東京都公園課が管理＝塔の中に資料が保管されている)・被災写真・絵巻などの実態調査・把握と保存に関する調査研究予算をもらっている。来年9月1日にこれに関連する展示会を行う方向で現在働きかけている。慰霊堂・復興記念館で関東資料の展示会ができるなら、これを見学するツアーを企画してはどうか。実物を前にしてきちんとした展示にするための議論をしても良いのではないかと。明日行われる文化財保護に関する会議で、歴史地震研究会として見学希望者が出てくる可能性が高いので対応できないか提案する。

宇佐美会員から提案されたように、1つのテーマについて掘り下げるシンポジウムを行うなら、テーマと発表者を行事委員会で決めて運営したほうが良い。次回幹事会で行事委員から具体案を報告する。予算案も次回幹事会(1月)までに作成し、報告する。

第2回幹事会の日程

1月13日(水)16時から地震予知総合研究振興会会議室にて開催する予定。

2009年度第2回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2010年1月13日(水)16:00～19:00

場所:地震予知総合研究振興会5F会議室

出席者:北原(会長),武村(副会長),小松原,林,松浦,諸井(以上,幹事),西山(行事委員)

議事

1. 会誌編集の状況(編集幹事)

9編集まる予定(7編既着・2編予告),この他に2編が前号に寄稿され修正継続中のもの。今後幹事などに査読を求める予定。

2. 学術会議登録申請(編集幹事)

学術会議に学会登録申請を出したが返事なし。地震研究所で留まっている可能性がないか西山さんに確認をお願いする。

3. 会員の異動(財政幹事)

前回幹事会以降に一名入会申請があり、承認。最近の大会発表者に非会員が居られるので、入会を勧めることを確認。林広報幹事が対応することに。

4. 入会申請書の書式(財政幹事)

財政委員が生年月日と性別を書く欄を加えた新申請書を作り、広報委員がHPに掲載する。

大会案内のはがき(往復はがき)に生年月日・性別・最近異動した人には最新の住所・所属を書き込んでもらう欄を加えて会員全体の状況を把握する。

5. 次回大会の計画(行事委員)

5.1 大会全般

- ・9月10～12日に地震研究所で開催する。
- ・地震研究所セミナー室A・B(定員96名)の休日施設利用申請は受理されている。セミナー室のプロジェクトの接触が悪いので修理を求める。
- ・研究発表のほか、シンポジウムを開催し、震災復興記念館を見学する(後で詳述)。
- ・懇親会は1日目に地震研究所7階ラウンジで行う。予約済み。
- ・予算案は過去の大会の予算使用状況を参考に次回幹事会までに練り直すこと。(支出:会場使用料)

43680 円＋アルバイト代（大学院生確保済み）45000 円＝計 88680 円のほか予稿集印刷代などを計上する必要あり。収入：参加費は会員と非会員で区別すること可。）

- ・ 会員への大会告知について：文章は行事委員会で作成しはがき印刷と送付は財政委員会で行う。告知内容は 開催場所・日程・講演申し込み締め切り(5月31日)・講演と懇親会の申し込み先等
- ・ 返信はがきで会員名簿改定のための生年月日・性別・異動状況等を記入・送付して貰う。

5.2 シンポジウムについて

- ・ 根本的に何を議論するかを明確にする。
- ・ 会員以外の人にも興味を持つことができるテーマを設定するほうが良い。
- ・ 会員に余り知られていない分野から講師を招き、会員の視野を広げることにつながるようなテーマを設定する。
- ・ 例：宝永地震のような巨大地震と日本社会の変化に焦点をあててはどうか？・江戸の社会状況と地震被害＝地震被害予測に対する歴史地震アナログの適用性を検討するための基礎として＝を議論できないか？・歴史地震が防災に役立つ背景としての人の暮らしぶりを物語ることのできる人文系の人を呼んではどうか？
- ・ 会員外から人を呼ぶなら 1 日目または 2 日目の午後にシンポジウムを開き、その晩に懇親会を開くように柔軟にプログラムを組んだほうが面白い。
- ・ 講師代は 5 万円が上限。
⇒幹事会のメーリングリストで具体的なシンポジウムのテーマや依頼できそうな講師を提案し、行事委員会が計画をまとめる。

6. 震災復興記念館の利活用にむけたイベント

東京都と朝日文化財団が震災復興記念館の修繕と利活用促進に向けた防災の日記念イベントを企画している。これに歴史地震研究会としてどう対応するか議論した。2月3～4日のあちらの会議で歴史地震研究会の見学会として現地を訪ねることを伝える（会長）。今のところ、防災の日イベント主催者から歴史地震研究会に対して具体的に何かしてほしいという要請はない。しかし今後になんらかの協力を要請される可能性あり。今の段階では、朝日文化財団と東京都による模型の修繕、東京都による死者の名簿の作成が計画・一部実行されている。しかし施設を十分に活用できるようにするためには専門的立場からの助言が必要で、歴史地震研究会が協力できる部分が多い。歴史地震研究会の見学会では、慰霊堂の中の塔にどんな資料があるのか、どういう経緯で資料が収められているのか、など本記念館の歴史的な価値を議論し、重要性を再認識するきっかけを作りたい。見学会（防災の日イベント）以降も、研究会で展示パネルを提供するなどの形で協力する可能性がある。

7. 2011 年大会について（会長）

新潟大学人文学部・矢田先生に行事幹事に就任してもらうように依頼し、復興科学センタート部先生とともに行事委員会を組織して対応してもらうことを承認していただいた。実際の日程などは地質学会の日程そのほかト部先生の状況に配慮しながら進める。場所は新潟駅前の新潟大学サテライトキャンパスを予定。行事委員会で行事の大枠を決め、幹事が協力しながら進める方針。

8. その他

GEM プロジェクトについて

Ross Stein 氏等の主導により、OECD のプロジェクト(GEM=Global Earthquake Model Project)が始動している。5年計画で世界の地震リスクの標準化、内最初2年で世界の地震ハザードをまとめる計画。日本からは石川氏・石橋氏・松浦氏がハザードの歴史地震部分のプロジェクトに参加。このプロジェクトから歴史地震研究会に協力を求められる可能性がある。内容や状況をみきわめつつ対応する方向で議論。

2010年1月18日阪神淡路大震災15周年フォーラムについて

日本地震工学会など防災関連学会間の連絡体制を作ることを意図して関連する15学協会合同のフォーラムを神戸市で1月18日に開催、さらに3月30日～31日に研究者向けフォーラムを学術会議で開催する。これらを契機として連絡組織を立ち上げる。歴史地震研究会もこの連絡会に入るべきか検討する必要性が生じるかもしれない。

内閣府中央防災会議・災害教訓の継承に関する専門委員会の後継事業について

災害教訓の継承に関する専門委員会は本年度で完了するが、理工系を中心に地震・火山・津波に関して「まとめ」の報告書(4分冊)を2年間で作成し、広く世の中に流布させる計画が立ち上がる。これまでに関わってきた人の中から適当に委員長(伊藤先生)が個人的に指名する予定。

次回までの作業の確認

- ・ 2月10日までに歴史地震研究会HPと地震学会NLに2010年大会の日程・場所・講演題目申し込み・問い合わせ先の案内を掲載・寄稿。
- ・ 4月10日までに歴史地震研究会HPと地震学会NLに講演募集記事を掲載・寄稿。

第3回幹事会の日程

2010年4月1日(木)16時から地震予知総合研究振興会会議室にて開催予定。

2009年度第3回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2010年4月1日(木)16:00～18:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:北原(会長),武村(副会長),小松原,林,松浦(以上,幹事),中村,西山(委員)

議事

1. 会誌「歴史地震」論文の投稿・編集の状況に関して

論文・報告を10編掲載予定(8編査読済み・著者に修正依頼中,1編査読中,1編無査読で報告として掲載予定)。大津大会の公開フォーラムについて,小松原が簡単な報告をまとめ,幹事に意見を求める。以上をまとめて,5月中には印刷に回すことができる見込み。

2. 論文のWeb上の公開について

会員の所属する大学より,大学のHP上で歴史地震に掲載された論文を公開できないかという希望が出されていることについて,対応を議論した。最新号についてはHP上の掲載を断るが,最新号以前のものについては歴史地震研究会のHPにリンクをはって掲載するように要請することになった。

3. 2010年東京大会について

3.1 連絡体制

行事委員全員(佐竹・西山・石辺)をcmushaメンバーに含め,連絡を徹底する。今後,会員や外部との連絡には行事委員全員に届くメーリングリストを活用することに。

3.2 行事日程

行事委員会作成の日程案について再検討。行事委員会作成の当初案は9/10午後シンポジウムと懇親会・9/11研究発表会と総会・9/12午前研究発表会,午後見学会であったが,シンポジウムの日時は講師の予定を確認した上で決めることに。連絡役は北原会長。4月前半には日程が明らかになる予定。なお,シンポジウムを当初案通りに10日午後で開催するなら当日午前に研究発表会を入れる。

3.3 シンポジウム「描かれた江戸・撮られた東京」の内容

歴史地震研究会会員を主対象として,江戸時代後期～戦後の江戸・東京の変遷に関するシンポジウ

ムを開く。講師・内容は以下の通り。

小沢弘講師(江戸東京博物館)：近世後期に描かれた江戸

佐藤洋一講師(早稲田大学)：GHQ 撮影の東京

北原糸子講師(立命館大学)：前2者をつなぐ形で関東地震前後の東京
司会は武村副会長。

3.4 震災復興記念館見学会について

慰霊堂では9月1日に慰霊祭を行うが、今年は12日まで公開の予定。慰霊堂に収蔵されている絵巻や模型を補修して展示する。見学会への参加は非会員でも可とする。ただし、全員事前に申し込みの上、名札を付けて参観すること。

3.5 参加費について

研究発表会・シンポジウム・見学会一括で参加費を会員1000円、非会員2000円とする。

懇親会参加費は4000円程度を予定。

3.6 開催形式

関東大震災資料調査会・東京大学地震研究所・地震学会に対して後援名義使用許可を申請する。

3.7 参加申し込み

HPおよび地震学会NL原稿と会員向け葉書原稿を行事委員が作成し、前者は広報委員に、葉書原稿は財政委員に送ること。期限は4/9。シンポジウムについてはシンポジウムのタイトルと講師名を記載する。5月末日に講演申し込み締め切り、7月末日に懇親会・予稿集原稿など締め切り

3.8 その他

シンポジウム・見学会の大々的な広報は6月9日締め切りとする。シンポジウムのビラは武村副会長が作成

4. 入退会者

3名の入会を全会一致で承認

5. その他

mushaによる情報提供について意見交換をした。

3/31 防災関連学会連携体シンポジウムについて

地域安全学会・日本自然災害学会・地震工学会・地震学会・土木学会・地盤工学会が参加してシンポジウムを開催、武村副会長が地震学会から参加。研究会は会員が増加しているが、多くの学会が会員減に直面しており、今後の動きを会も注意したい。

第4回幹事会の日程

2010年6月3日(木)16時から地震予知総合研究振興会会議室にて開催予定。

第27回歴史地震研究会(2010年9月10～12日) 講演申し込み案内

■第27回歴史地震研究会(東京大会)のお知らせ 第2報

歴史地震研究会では、以下の日程で第27回歴史地震研究会(東京大会)を開催することになりました。講演申し込みの締め切りは5月31日(月)です。研究発表会プログラム等は、次号の地震学会ニュースレターならびに歴史地震研究会ホームページ(<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>)にてお知らせします。

1. 場所:東京大学地震研究所 1号館3階セミナー室A・B(東京メトロ南北線「東大前」駅下車徒歩5分)
2. 日程:9月10日(金):研究発表会(10:00～12:00)、シンポジウム(13:30～16:45)、懇親会(17:00～19:00)
9月11日(土):研究発表会(9:30～17:30)、総会(17:45～18:45)
9月12日(日):研究発表会(9:30～12:00)、東京都復興記念館見学会(14:00～16:00)

※シンポジウムは「描かれた江戸、撮された東京」と題して、近世～近現代の江戸・東京を描写した絵画史料・写真資料を基に、江戸・東京の都市景観の変遷について講演・討論を行う予定です。講演者は小沢 弘氏・佐藤 洋一氏・北原糸子氏の3氏です。

※東京都復興記念館見学会については、所定の時間に各自で現地へ集合していただきます。

・場所: 東京都墨田区横網2-3-25 横網町公園内

・最寄り駅: 都営地下鉄大江戸線「両国」駅(E12)下車徒歩7分

(東京大学地震研究所から東京都復興記念館までの所要時間約40分)

3. 講演申し込み

発表者(共同研究の場合は全員の名前と発表者名)・題名・発表形式(口頭・ポスター・どちらでもよい、のいずれか)を明記の上、5月31日(月)までに行事委員会あてに電子メール・手紙・FAXのいずれかでお申し込みください。口頭発表の持ち時間は1件につき15分(質疑応答を含む)の予定です。また、口頭発表ではPC接続可能な液晶プロジェクターが使用できます(PCは発表者が持参願います)。申し込み先は末尾をご参照ください。

4. 予稿集原稿の投稿

発表1件につきA4サイズ1ページ、カメラレディ(そのままで印刷可能な)原稿のご用意をお願いします。白黒印刷に配慮した作成(特に図や写真)をお願い致します。原稿は電子メールまたは郵便にて下記までお送り願います。7月31日(土)必着といたします。予稿集原稿の送付先は末尾をご参照ください。

5. 研究発表会・懇親会・東京都復興記念館見学会の参加申し込み

研究発表会・懇親会・東京都復興記念館見学会に参加をご希望の方は、7月31日(土)までに、電子メール・手紙・FAXのいずれかでお申し込みください。申し込み先は末尾をご参照ください。

6. 各種申し込み先・予稿集原稿送付先・問い合わせ先

歴史地震研究会行事委員会: 佐竹健治(委員長)・西山昭仁・石辺岳男

電子メールの場合: rekishi2010@eri.u-tokyo.ac.jp

手紙・FAXの場合: 〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所 地震火山情報センター

歴史地震研究会行事委員会 西山昭仁・石辺岳男

FAX番号 03-3814-5507

2009年度第4回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時: 2010年6月3日(木) 16:00~18:30

場所: 地震予知総合研究振興会会議室

出席者: 北原(会長), 武村(副会長), 小松原, 佐竹, 林, 松浦(以上, 幹事), 中村, 西山(委員)

議事

1. 会誌編集の状況及び会員住所の確認について

編集幹事より論説・報告8編掲載予定で、いくつか修正を要するものがあり、7月に印刷に回す予定との報告があった。なお、送付先については、財務幹事から往復はがきを用いて会員の最新住所を確認中であり、順調に連絡が届いている旨の報告があった。

2. ホームページ (HP) のお知らせについて

歴史地震研究会のHPで公開されている「歴史地震」の論文が閲覧できないという一部会員からの苦情があった。調査の結果、初回の閲覧のみ時間を要し二度目以降は早くなって見られる場合が多いようで、他では再現しないようである。HPを改善する場合、費用が発生するため、再度苦情が来た時に対応を考えることとなった。

3. 会誌無償先について

「人と防災未来センター資料室」よりバックナンバーを含め、会誌の送付依頼のメールがあり、今回から無償送付することとなった。バックナンバーについては古いものは在庫がないものもあるが、在庫のあるものについては有償（一冊 2000 円）で提供することとなった。

4. 2010 年東京大会について

4.1 会議室及び後援名義について

関東大震災資料調査会・日本地震学会・東京大学地震研究所の後援名義の許可を頂いた旨の報告があった。

行事幹事より、地震研究所の会議室は予約が完了した旨の報告があったが現状では有償である。同研究所が後援でなく共催となって頂くことができれば、会議室を無償で利用できるため、これにより学生の大会参加費は無料とすることができるという話があり、行事幹事は、地震研究所共催についても検討することとなった。

4.2 講演申し込み及びプログラム

行事幹事より、34 件の申し込みがあり、プログラム編集中であるとの報告があった。口頭発表時間は 20 分/1 件と長めにとる予定である。なお、万一、追加で申し込みがあった場合にはポスターセッションで対応することを基本とする。

4.3 シンポジウムの事前打ち合わせについて

シンポジウム「描かれた江戸・撮された東京」の講演者・司会者及び行事委員で 8 月前半頃に事前の打ち合わせを行う。日程については、関係者間でメール連絡する。

4.4 第四紀学会へ大会案内の情報を流してもらう件について

大会の案内を第四紀学会に流してもらう件については、財政幹事で対応することとなった。

4.5 見学会について

見学会時の名札や大会の小物類の幹事間の引き渡し、シンポジウムのポスター作成、当日のバイトの確保、地震学会ニュースレター掲載事項および要旨の発行元等、今後の調整事項について確認した。

5. その他

来年度の大会開催地は新潟を予定している。開催に向けた準備・体制について打合せを行った。また、来年度の研究会の体制について話し合いがあった。

第 5 回幹事会の日程

2010 年 8 月 27 日(金) 15 時から地震予知総合研究振興会会議室にて開催予定。

第 27 回歴史地震研究会(2010 年 9 月 10～12 日) プログラム等

■第27回歴史地震研究会(東京大会)のお知らせ 第3報

歴史地震研究会では、9月10日(金)～12日(日)に日本地震学会・関東大震災資料調査会のご後援を頂き、東京大学地震研究所と共催で下記の研究発表会・シンポジウム・見学会を行います。研究発表会・シンポジウム・懇親会・見学会への参加お申し込み、予稿集原稿の締め切りは7月31日(土)です。詳しくは末尾をご参照ください。

1. 場所:

東京大学地震研究所 1号館3階セミナー室A・B(東京メトロ南北線「東大前」駅下車徒歩5分)

2. プログラム:

9月10日(金): 9:30～ 受付開始 研究発表会・シンポジウム参加費(含予稿集代):

歴史地震研究会会員1,000円, 非会員2,000円(学生は無料)

I 災害対応 (10:00-11:00)(*は発表者, 以下同じ)

- ・*木村玲欧・宮村攝三(故人):埋もれていた被災者実態調査～宮村攝三が行った「1948福井地震通信調査」
- ・中西一郎:1923年関東地震直後の京都帝国大学の活動:京都大学に残る記録
- ・蔡垂功:1935年台中・新竹地震における災害対応について

II 地震・火山カタログ (11:20-12:00)

- ・*石橋克彦・古代中世地震史料研究会:[古代・中世]地震・噴火史料データベース
- ・秋教昇・朴昌業・*都司嘉宣:白頭山の歴史時代の火山活動

シンポジウム:「描かれた江戸,撮された東京」(13:30-16:45)

司会:武村雅之(小堀鐸二研究所副所長)

- ・小澤弘(江戸東京博物館副館長):描かれた江戸のイメージ
- ・佐藤洋一(早稲田大学教授):撮された占領下の東京
- ・北原糸子(立命館大学教授):変わらぬ江戸・変わる東京

懇親会(17:00-19:00) 於:地震研究所 1号館7Fラウンジ 参加費:4,000円(学生は2,000円)

9月11日(土):

III 南海トラフの地震 (9:30-10:30)

- ・羽鳥徳太郎:四国西部・九州東部沿岸における宝永(1707)、安政(1854)南海津波の波高増幅度
- ・*宍倉正展・行谷佑一:足摺岬における宝永・安政・昭和南海地震の地殻変動
- ・*松浦律子・中村操・唐鎌郁夫:1707年宝永地震の新地震像(速報)

IV 近世の地震 (10:50-11:50)

- ・*都司嘉宣・松岡祐也:安政南海地震(1854)による土佐国の死者分布
- ・西山昭仁:文禄五年(1596)伏見地震における京都盆地での被害状況
- ・松浦律子:1861年文久宮城の地震の震源域再々考

V ポスター発表 (13:30-14:30)

- ・*松浦律子・岩佐幸治・出町知嗣・古村美津子・関根真弓・鈴木保典・中村操:1833年出羽沖地震の震源域について
- ・*石井寿・植竹富一・渡辺健・宇佐美龍夫・中村亮一:天保四年(1833年)山形沖地震津波の調査
- ・檜垣大助・*白石睦弥・古澤和之:1793寛政西津軽地震に関する一考察
- ・*都司嘉宣・松岡祐也:安政江戸地震(1855)による江戸市中の町別死者数
- ・*金幸隆・吾妻崇:六日町断層の活動履歴
- ・*今井健太郎・西山昭仁・前田拓人・石辺岳男・佐竹健治・古村孝志:史料に基づく1707年宝永地震の発震時刻に関する統計的解釈
- ・*井若和久・上月康則・山中亮一・村上仁士:徳島県美波町における1946年昭和南海地震津波での避難行動について
- ・武村雅之:関東大震災による寺院移転:得生院縁起を巡って

VI 越後・佐渡の地震 (14:30-15:50)

- ・石橋克彦:1670年寛文越後地震の震源域
- ・*南雲秀樹・菅原正晴・中村亮一・植竹富一:震度データと上下動地殻変動データに基づく享和2年(1802年)佐渡小木地震の断層モデルの推定
- ・*都司嘉宣・西山昭仁:寛延四年(1751)越後高田地震および文政十一年(1828)越後三条地震の村落別死者数
- ・河内一男:1828年三条地震の震央は平野中央部であったか

VII 天然ダムと堆積物 (16:10-17:30)

- ・早川由紀夫:信濃北部地震と平安砂層
- ・井上公夫:長野県中・北部で形成された巨大天然ダムの事例紹介ー八ヶ岳大月川岩屑なだれと姫川・岩戸山の大规模地すべりー
- ・*藤原治・平川一臣・入月俊明・長谷川四郎・鎌滝孝信・原口強・内田淳一・安部恒平:千葉県館山市の海浜堆

積物に見られる9世紀以降の津波(?)イベント堆積物

・島崎邦彦・*金幸隆・千葉崇・石辺岳男・松岡裕美・岡村眞・都司嘉宣・佐竹健治:三浦半島における関東地震起源の津波堆積物の認定と歴史地震

歴史地震研究会総会 (17:45-18:45)

9月12日(日):

VIII 東北の地震 (9:30-10:50)

・松岡祐也:『三代実録』仁和三年五月廿日条の地震記述について—出羽国府周辺で起きた自然災害の検討—

・檜垣大助・*白石睦弥・古澤和之:1793寛政西津軽地震に関する一考察

・白石睦弥:『金木屋日記』に見る幕末の災害情報

・*神田克久・武村雅之:震度インバージョン解析を用いた1900年前後の地震の震源位置と地震規模の評価

IX 関東の地震 (11:10-12:10)

・*中村操・松浦律子:1855年安政江戸地震の被害と震源

・*石辺岳男・西山昭仁・佐竹健治・島崎邦彦:1885年以降の「M7級首都直下地震」の類型化(序報)

・武村雅之:東京の街に残る関東大震災の跡

東京都復興記念館見学会(14:00に各自で現地へ集合)

場所:東京都墨田区横網2-3 横網町公園内

最寄り駅:都営地下鉄大江戸線「両国」駅(E12)下車徒歩7分

(東京大学地震研究所から東京都復興記念館までの所要時間約40分)

3. 参加申し込み

研究発表会・シンポジウム・懇親会・東京都復興記念館見学会に参加をご希望の方は、7月31日(土)までに、電子メール・手紙・FAXのいずれかでお申し込みください。申し込み先は末尾をご参照ください。

4. 各種申し込み先・予稿集原稿送付先・問い合わせ先

歴史地震研究会 行事委員会:

佐竹健治(委員長)・西山昭仁・石辺岳男

電子メールの場合:rekishi2010@eri.u-tokyo.ac.jp

手紙・FAXの場合:

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所 地震火山情報センター

歴史地震研究会 行事委員会 西山昭仁・石辺岳男

FAX番号 03-3814-5507

※注意事項:歴史地震研究会では宿泊予約を取り扱いません。また、会場周辺には食堂などが多数あるため、昼食予約は取りません。悪しからずご了承ください

『歴史地震』原稿募集のお知らせ

2011年7月発行予定の会誌『歴史地震』(第26号)の原稿を募集します。原稿の締め切りは、2010年12月14日です。発行までには、査読者による原稿査読、著者による原稿の改訂、編集者が体裁などを整えて印刷所に入稿という手順があり、発行を年度末からずらしました。通年投稿を受け付けておりますので早めの投稿がお勧めです。皆様のご協力が欠かせませんので、ご理解のほどよろしく申し上げます。

『歴史地震』は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し、記事の種別として、論説、講演要旨、報告などを取り扱います。編集委員会では、第25号を次の記事を中心に構成する方針です。投稿をお待ちしています。

- (1) 2010年9月の第27回歴史地震研究会での発表内容に関連する論文または講演要旨
- (2) 昨年までの研究会で発表された内容、そのほかのオリジナルな内容、各種報告

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております。

1. 編集委員会で編集作業を進めます。
2. 論説については、査読制は取り入れています。少なくとも一人が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし、不備を指摘・訂正していただきます。
3. 原稿を作成する標準的な体裁『歴史地震』の標準形式」を定めています。これは歴史地震研究会のwebサイト (<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>) からダウンロードできます。
4. 電子媒体での投稿を奨励します。少なくとも本文は文書ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただくと、編集作業が効率的に行えます。前記のウェブサイトには、投稿者用のチェックシートもありますので、ご利用ください。
5. 最終原稿は、印刷物としての『歴史地震』のほか、PDF版として歴史地震研究会のウェブサイトで一般に公開します。原則として、印刷物はモノクロで刊行します。
6. その他詳細は、次の編集規定をご覧ください。また、以下のチェックを投稿前をお願いいたします。

『歴史地震』への投稿前チェック項目

- ・ 原稿は標準形式のワードファイルですか？
標準形式は、A4用紙で、左右の余白が各2cm、上下の余白は各2.5cm、フォントは和文が明朝体、英文がTimes、句読点は「,」と「.」です。和文タイトル16ポイント(以下ptと略)英文タイトル12pt、所属・著者名は10.5pt英文要旨も10.5pt。著者の連絡先は和文の所属に脚注として加えてください。
キーワードは英文要旨の次の行に Keywords: xxxx, www, zzz. のように記入してください。
ここでセクションを切り替えて、本文は2段組で段の横幅8cm、段の間は7mm程度とすれば本文は10.5ptで1行22文字、1ページ45行となります。
- ・ 原稿の種別は？ 論説・資料・講演要旨・報告・紹介・研究会記事
論説・資料は査読があります。
- ・ 標準形式でA4刷り上がりページ数は？
原稿種別によって規定より長いとページ超過料金が発生します。
- ・ 論説・資料の場合は以下のものが揃っていますか？
和文と英文の表題 和文と英文の著者と所属 英文200語程度の長さの要旨
英文5語程度のキーワード 本文(和文、図表、引用文献)
- ・ その他編集担当にご連絡があれば原稿送付時のメールか添え状にご記入ください。
特にカラー口絵にしたい図がある場合は、その旨、明記してください。費用負担は図にもよりますが、最低1ページ1万円程度の出費は覚悟が必要です。また、紙別刷りをご希望の場合にも、投稿時に明記してください。

- ・本文中で和暦と西暦が混同される危険はないですか？

歴史地震研究会では和暦は漢数字、西暦はアラビア数字を推奨しております。

- ・ 1582 年以前の西暦はユリウス暦ですか？あるいは暦が明記されていますか？

以上の項目をご確認のうえ、投稿いただきますよう、お願い申し上げます。

歴史地震研究会会誌編集規定 (2007 年 10 月 4 日制定, 2009 年 7 月 23 日一部改定)

総則

1. 本規定は、歴史地震研究会（以下、本会）の会誌の投稿、査読、編集および出版に関する手順と規則を定めるものである。
2. 本会が発行する会誌の名称は、『歴史地震』とする。英文では、**Historical Earthquakes** と表記する。
3. 本会の会員は、会誌に原稿を随時投稿できる。また、会員以外からの投稿も適宜受け付ける。
4. 編集出版委員会は、会員または会員以外に記事の執筆を依頼することができる。
5. 本誌の質を高めることを目的として、査読制を採用する。査読の対象とする記事の種別、および査読の手順と基準は、細則に定める。
6. 会誌の記事の投稿から出版までの順序は次のとおりとし、詳細は細則に定める。
 - (1) 投稿者は、編集出版委員会に原稿を提出する。
 - (2) 編集出版委員会は、投稿された原稿を速やかに受け付け、受付日を記録する。また、原稿毎に編集出版委員会の構成員のうちから編集担当者を決定する。
 - (3) 編集担当者は、投稿された原稿を細則に定める基準に従って点検し、必要と判断した場合は、著者に修正を要求することができる。
 - (4) 査読の対象となる原稿は、以下の査読手順を経ることとする。
 - a) 編集出版委員会は、会員または会員以外から査読者を選定する。
 - b) 査読者は、細則に定める基準に従って原稿を点検し、編集出版委員会に意見を提出する。
 - c) 編集出版委員会は、投稿された論文の掲載の採否を、査読者の意見に基づいて決定する。
 - (5) 編集出版委員会は、掲載を可とした原稿について、受理日を記録する。
 - (6) 投稿者は、原稿を校正および清書した後、最終原稿を編集出版委員会に提出する。
7. 各事業年度の会誌の発行号数および部数は、総会が決議した事業計画に沿う。また、会誌に掲載した記事は、本会のホームページで公開する。
8. 会誌に掲載された記事の著作権は、本会に帰属する。

細則

(原稿の種別)

1. 会誌は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成する。記事の種別は、論説・資料、講演要旨、報告・紹介、研究会記事とする。
2. 記事の種別は、次の基準で分類する。
 - (1) 論説・資料は、次のいずれかであり、査読の対象となる。
 - a) 著者による未発表の新知見を含む研究成果を記した論文
 - b) データ・文献・史資料を系統的に収集・整理・分類し、研究に寄与する価値を有する論文
 - (2) 講演要旨は、直近の研究発表会または講演会で発表済みの研究成果の要旨である。
 - (3) 報告・紹介は、研究集会の報告、研究プロジェクトの紹介、著書の紹介など、新しい情報に関する短い記事である。
 - (4) 研究会記事は、本会の活動に関する報告または連絡の記事である。原則として、幹事会または各委員会が執筆する。
3. 記事の刷り上り時の分量は A4 判で、論説・資料は 3～20 頁、講演要旨は 1～2 頁、報告・紹介は 4

頁以下を標準とする。ただし、編集出版委員会が特に必要と認めた場合は、この限りではない。

4. 記事の構成は、次のとおりとする。

(1) 論説・資料および報告・紹介は、表題（和文と英文）、著者・所属（和文と英文）、要旨（英文 200 語程度）・キーワード（英文 5 語程度）、本文（和文、図・表・引用文献を含む）で構成する。ただし、報告・紹介では、要旨とキーワードを省くことができる。論説には対象とした地震名を引用文献の前に明記する。

(2) 講演要旨は、表題（和文）、著者・所属（和文）、本文（和文、図・表・引用文献を含む）で構成する。ただし、英文で表題、著書・所属を加えてもよい。

（投稿者）

5. 投稿者は、記事の種別、著者の連絡先を明記して、郵送または電子メールで編集出版委員会宛に原稿 1 部を提出する。A4 判の用紙で標準書式にならって原稿を作成することが推奨される。

6. 依頼により原稿を執筆する著者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。

7. 投稿者は、編集出版委員会から査読者の意見と編集者の判定を受け取った後、原稿を点検し、必要な修正を加えた修正稿を編集出版委員会に提出する。

8. 投稿者と査読者の意見が対立した場合は、投稿者は編集担当者に対して、編集出版委員会が別の査読者を選定して意見を求めるよう請求できる。

9. 投稿者は、編集出版委員会からの受理の通知後、高品質に印刷した最終稿および電子原稿をすみやかに編集担当者に提出する。電子原稿は、編集出版委員会が定める標準書式に従って作成することが推奨される。

10. 投稿者は、付則に定める掲載料を支払わなければならない。

（編集担当者）

11. 編集担当者は、投稿された原稿を以下の点について判定する。

(1) 明白な誤りがないか

(2) 内容が会誌の対象の範囲に合致するか

(3) 記事の種別が適切か

12. 論説・資料として投稿された原稿について、編集担当者は、細則 11 項による編集担当者自らの判定と、査読者の意見を基に、原稿の取り扱いを次の中から決定する。

a) 掲載可

b) 修正を条件に掲載可

c) 修正後に再査読し、その後に再度判定

d) 編集出版委員会で協議して取り扱いを判定

e) 掲載不可

f) 原稿種別の変更

ただし、原稿の不備が改善しうると期待できる場合は b)、原稿種別を変更すべき場合は b)、原稿に相当大幅な修正を要する場合は c)、複数の査読者の意見が大きく異なる場合は d)、原稿に修正困難な明白な誤りがある場合は e)、細則 1 項に定める会誌の対象の範囲に合致しない場合には e)、原稿種別を変更して掲載する場合には f)、と判定する。但し、f) の場合には原稿の文末に编者注を付け、編集者により変更に至った経緯を明記する。

13. 講演要旨および報告・紹介の編集担当者は、必要に応じて投稿者に修正を求めることができる。

（査読者）

14. 査読者は、査読を通じて会誌の質を高めるよう努める。

15. 査読者数は、論説・資料は 2 名以上とする。ただし、直近の研究発表会または講演会で既発表の内容に基づく原稿については、編集出版委員会の判断で、査読者数を 1 名とすることができる。編集出版委員会が査読者を人選し、依頼する。

16. 査読手続きに必要な郵送料は本会が負担する。また、会員以外の査読者に対して、本会は幹事会が

決定する額の謝礼を支払うことができる。

17. 査読を依頼され、専門分野などの理由で査読が不可能と判断した場合は、すみやかに、編集出版委員長または編集担当者へ通知することとする。また、査読者は、専門分野などの理由で必要な場合、編集担当者を通じて、査読者の追加あるいは会員による助言を要求できる。

18. 査読者は、内容に明白な誤りがある場合、表現が不適切な場合、論理に問題がある場合、原稿の種類が適切でない場合のいずれかに該当する原稿に対しては、改善意見を述べることとする。また、論説・資料については、細則2の要件を満たしているか否かを判定し、編集担当者に対して、原稿の取り扱いについての意見を示すこととする。

(その他)

19. 編集出版委員会は、特定のテーマを設定して会誌の原稿を募集し、会誌に特集を編むことができる。

20. 編集出版委員会は、投稿者の参考のために原稿の標準書式を、査読者の参考のために原稿点検の標準チェックシートを、それぞれ作成する。

付則

1. 掲載料は次のとおりとする

(1) 連絡担当著者が会員の場合

全頁モノクロであり、かつ細則3に定める標準の頁数以内であれば、掲載料は無料とする。カラーの頁を含む場合は、モノクロ頁との印刷経費の差額に相当する実費をカラー頁分が掲載料として課される。また、標準の頁数を超過した場合は、会誌発行経費の頁単価に、超過分の頁数をかけた額が掲載料として課される。

(2) 連絡担当著者が非会員の場合

会誌発行経費の頁単価に、印刷時の頁数をかけた額が掲載料として課される。カラーの頁については、会員と同じとする。

(3) 依頼による執筆の場合は、前二項によらず、掲載料は無料とする。

2. 本規定は、2010年発行の『歴史地震』第25号より適用する。

歴史地震研究会への入会手続きのご案内

歴史地震研究会に入会をご希望の方は、次頁の申請書に必要事項を記入して、係(諸井幹事)までお送り下さい。

送り先:鹿島建設(株) 小堀研究室 諸井孝文 (当会財政委員長)

〒107-8502 東京都港区赤坂 6-5-30

FAX : 03-5561-2431 電子メール : moroi@kajima.com

歴史地震研究会入会申請書

歴史地震研究会会長 北原 糸子 殿
 歴史地震研究会への入会を申請いたします

年 月 日

ふりがな 氏名		関連分野	
生年月日	年 月 日	性別	男 ・ 女
所属機関	名称・部署		
	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒 TEL: FAX:	
自宅	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒 TEL: FAX:	

----- きりと -----

- 注 1: 申請書に記された情報は歴史地震研究会の活動以外の目的には使用しません。
 注 2: 会員に配布される名簿に記載されることを希望しない項目は()内に記入してください。
 注 3: 会誌送付先を太字または下線付きなどで強調して記してください。

名簿欄記入例 (自宅情報は非開示, 所属先に会誌送付希望の場合)

ふりがな 氏名	じしん さぶろう 地震 三郎	関連分野	災害科学
生年月日	19〇〇年 〇〇月 〇〇日	性別	(男) ・ 女
所属機関	名称・部署	歴史地震研究所・災害研究課	
	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒000-0001 東京都弥生区文京 1-1-1 TEL: 00-0000-0001 FAX: 00-0000-0002 〇〇@〇〇. 〇〇	
(自宅)	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒000-0001 東京都弥生区文京 マンション耐震 1-1 TEL: 00-0000-0003 FAX: 〇〇〇@〇〇. net.jp	

歴史地震研究会会則

(2000年10月1日制定, 2002年9月7日改定, 2006年9月16日改正, 2008年9月14日改正)

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、『歴史地震研究会』(The Society of Historical Earthquake Studies)という。

(目的)

第2条 本会は、歴史上の地震ならびにそれに関連する諸現象・諸問題に関して、理学、工学、人文科学、社会科学、および防災科学の研究を促進し、相互の情報交換を行うとともに、一般市民を交えた知識の共有と相互理解をはかることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究成果発表会および講演会
- (2) 会誌の刊行
- (3) 広報活動
- (4) その他、必要な事業

(事務所)

第4条 本会は、事務所を東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所内に置く。

(事業年度)

第5条 本会の事業年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる。

(会則改正)

第6条 この会則は、総会において、表決権を持つ出席者の3分の2以上の賛成により、改めることができる。

(規定)

第7条 この会則の実行に必要な規定は、幹事会の議を経て別に定める。

第2章 会員

(会員)

第8条 本会は次に定める会員からなる。

(1) 会員 本会の目的に賛同する個人

第9条 会員は付則に定める年会費を、各年度始めに納入しなければならない。

(会員の特典)

第10条 遅滞なく会費を納めている会員は、次の特典を有する。

- (1) 会誌の配布を受けること
- (2) 研究発表会において、研究成果を発表すること
- (3) 会誌へ論文などを投稿すること
- (4) 総会に出席し、表決権を行使すること
- (5) 総会または幹事会に対して議論すべき事項を提案すること

(入会)

第11条 会員になろうとするものは、所定の申し込み書を会長に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

(退会)

第12条 退会しようとする会員は、会長に退会届を提出しなければならない。この場合、未納会費がある時は、それを全納しなければならない。

(入退会時期)

第13条 会員の入退会は、事業年度を単位とする。

(除 名)

第 14 条 本会の会員として著しく不適切な行為のあったと判断されたものは、幹事会の議を経て、会長はこれを除名することができる。

第 3 章 役 員

(役 員)

第 15 条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副会長 1 名
- (3) 幹 事 5 名
- (4) 監査役 2 名

第 16 条 会長は会員の中から総会で選出する。

- 2 副会長および幹事は会長が会員の中から委嘱する。
- 3 監査役は会員の中から総会で選出する。
4. 会長および監査役の選出手続きは付則に定める。

第 17 条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長不在時には会長を代行する。
- 3 幹事は幹事会を構成し、かつ総務、財政、行事、広報、編集出版の各委員長をつとめる。
- 4 監査役は本会の業務の執行および会計を監査する。
- 5 各委員会の委員は委員長が選任し会長が委嘱する。

第 4 章 総会および幹事会

(総会の招集)

第 18 条 総会は年 1 回、会長が招集する。総会は会員の 10 分の 1 の実出席を要する。委任状は発行しない。

(総会の決議事項)

第 19 条 総会では次のことを行う。

- (1) 次期会長の選出
- (2) 次期監査役の選出
- (3) 前年度の事業経過および決算報告と、その承認
- (4) 次年度の事業計画および予算案の提案と、その承認
- (5) 会則の改正
- (6) その他

(幹事会)

第 20 条 幹事会は会長が招集し年 2 回以上行う。議長は会長が行う。その他幹事からの提案で、臨時に開くことができる。幹事会は幹事の 2/3 以上の参加をもって成立し、決定は出席者の過半数をもって行う。幹事会は代理出席を認める。

第 5 章 会 計

(資 産)

第 21 条 本会の事業は会費、寄付金、事業に伴う収入および雑収入によって行う。

(事業計画・予算案)

第 22 条 本会の事業計画およびこれに伴う予算は、会長および財政委員長がこれを幹事会の議を経て作成し、総会の議決にもとづき執行する。

(事業計画・収支決算の監査)

第 23 条 本会の事業報告および収支決算は、会長および財政委員長がこれを作成し、監査役の監査を経て幹

事会および総会において承認を受けなければならない。

付 則

第 1 条 第 10 条による会費は、次の通りとする。

会員 3000 円

第 2 条 第 16 条による会長選出手続 会長候補者は 3 名以上の推薦者をもって立候補し、総会の 1 週間前までに幹事会に届け出る。

第 3 条 第 16 条による監査役選出手続 監査役は 3 名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される。推薦者ないし被推薦者は総会開催前に幹事会に届け出る。

第 4 条 本会則は、2008 年 9 月 15 日から施行する。

組 織

総務委員会

文書の受付, 配布, 会誌『歴史地震』の発送

歴史地震研究発表会の開催に関する事項

財政委員会

予算の編成, 決算に関する事項および研究会の財政に関する企画

普通会员の入退会, 除籍に関する事項および名簿に関する事項

行事委員会

歴史地震研究発表会の開催に関する事項および他学会協賛に関する事項

広報委員会

歴史地震研究発表会および会誌『歴史地震』の広報に関する事項

編集出版委員会

会誌『歴史地震』の編集出版に関する事項

歴史地震研究会役員および委員名簿

役員名簿

会長 北原糸子

副会長 武村雅之

幹事 小松原琢, 佐竹健治, 林能成, 松浦律子, 諸井孝文

監査役 永井九一, 中村操

委員名簿

総務委員会 委員長 小松原琢, 委員 中村亮一

財政委員会 委員長 諸井孝文

行事委員会 委員長 佐竹健治, 委員 西山昭仁, 石辺岳男

広報委員会 委員長 林能成, 委員 小山真人

編集出版委員会 委員長 松浦律子, 委員 西山昭仁, 行谷佑一